

カトリック 仙台教区報

2003年6月20日 No.152

発行
カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378

発行責任 広報委員会

URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

バチカン公会議が終わって40年

仙台教区 司教 溝部 脩

第二バチカン公会議が終わって40年、40年の歳月が流れていきました。その間多くの変化が見られました。典礼、制度、教理など多くの点で、昔受洗した人には考えられなような変革がありました。それだけに昔は良かったと懐かしむ人や、今の教会しか知らない人やで、教会が混沌としている印象があります。この40年をどのように考えたら良いのでしょうか。

ヨハネ・パウロ二世教皇様は、「2000年の初めに」という使徒的勧告を發布しました。副題として「沖に漕ぎ出せ」としています。即ち、価値観が混沌としている現代社会に教会が漕ぎ出していくよ



司教館全景

うにということですが、その主題です。実を言うと、これが書かれた

代への適応と新しい時代にむけての取り組みを積極的に打ち出しました。しかし、結果的には機構の改革と現代社会の問題の取り組みに終始して、大切な教会の本質的

なあり方に関しての問いかけが少なかったことに気付いたのでした。こうした事情を踏まえて、公会議からの歩みを総括する意味で、この使徒的勧告が發布されたことに留意しないといけません。教会がまず取り組まなければいけないのは、機構の改革より人間の改革に向けることにあります。

機構を動かすことができる人を養成しなくて、ただ機構のみをいじくると、そこには徒な争いや分裂が起こるのみなのです。人が変わる、これが大切な

のです。「沖に漕ぎ出せ」と同勧告は勧めています。しかし、漕ぎ出すためにはどうしても漕ぎ出す人が、神様からの呼びかけに目覚める必要があります。現代の問題に取り組むには、キリストの考え方、生き方をしっかりと自分のものにしていかないとダメです。一貫して現教皇様が強調している点は、徹底した自己変革、深い霊性の歩みを自らに課すことにあるのです。

塩と光

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16、15)。私たちは、復活の主からのこの至上命令を生涯かけて実践するために、選ばれました。けれども、その方法をイエスは、何も指示なさいません。ですから、それぞれが聖霊の導きのもとで、最も自分にふさわしい方法を選んでいかなければなりません。たとえば、子育てで孤軍奮闘している若い母親は、自分の胸に抱いている赤ん坊に肌を通して、福音を伝えればよいのです。しかも「全世界に行って」とはまず身近なところから始めることではないでしょうか。最後の晩餐での告別説教の中で主は命じられました。「あなた方が出かけて行って実を結び、その実が残るよ」と、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなた方を任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である(ヨハネ15、16、17)。ですから、教えを広めるといふよりは、愛の実りを結ぶことが宣教の目的です。

「塩と光」執筆は佐々木博神父

7年ぶりに 新司祭誕生

木村国基師 司祭に叙階

風薫る5月17日(土)、カトリック仙台カテドラル(元寺小路教会)において、仙台教区長溝部脩司教司式により、木村国基師の司祭叙階式が執り行われた。

教区民の篤い祈りのもとに、

仙台教区に新しい司祭が誕生した。当日は仙台教区司祭の他、東京、横浜、札幌からも司祭が集い、司教と共に叙階ミサを捧げた。

式にはご家族、出身教会の塩釜教会を始め各教会から多数の信徒、修道者が参列。仙台教区では七年ぶりの司祭叙階式となり、聖堂は喜びと祝福に包まれた。



た。

式は田中神父の司会で始まり、司祭団が入堂すると聖堂内は聖歌「神よあなたのことは」の力強い歌声で満ちた。言葉の典礼の後、受階者が呼び出され、参列者の証言を聞き司教が「…キリストの助けによって、この兄弟を司祭団に加えることにします」と宣言した。

続いて司教訓話。「司祭に召されることは神がお選びになったこと。教会と社会に生涯を奉仕すること。ことばと秘跡による奉仕、特に聖体祭儀と許しの秘跡を分け与えること。」など司祭職の務めが話された。その後、約束の式に移り、司教の問

いかけに答える応諾の音が、聖堂内に響き渡った。続いて司教の按手、司祭団一人一人の按手があり、塩釜教会時代幼児洗礼を授けた深沢守三神父が最後の按手をされた。その後、祭服を身に着けた木



かれ新司祭と喜びを共にした。聖堂前の広場では青年たちが「マリア音頭」を披露。木村神父も輪の中に入って踊り拍手を浴びた。

村新司祭は祭壇奉仕、聖体授与奉仕を行った。

最後に新司祭が挨拶され、これまでの祈りと、励ましに感謝。今後皆様と共に歩みたいと述べられ、会衆から祝福の拍手を浴びた。ミサ後、盛大に祝賀会が開

た。仙台教区に木村司祭に続く新たな司祭誕生を祈り喜びの一日を終えた。

『よろしくお願いします』

仙台中央地区 協力司祭



木村 国基 叙階式の際には教区内外から多くの

方々にご参列いただき、ありがとうございました。仙台教区としての司祭叙階式は7年ぶりです。式当日、わたしも参列した小松師・和野師の叙階式を思い出していました。あれから7年の歩みの中で出会った多くの信徒の方々、先輩司祭の方々のお祈りと助言という恵みのおかげで、今日という日があるのだと確信しております。

叙階式の挨拶の中でも触れましたが、教区のみなさん、どうぞこれからも司祭召命のために祈りください。司祭職への希

望をもっている若者は確かにあります。彼らが、この多様化・複雑化した時代の中にあっても『キリストの司祭職』へとその一歩を踏み出すことができ

るように、励ましとお祈りをお願いいたします。そしてまた、新司祭のためにもお祈りください。生涯、キリストの弟子として神と人々に仕える奉仕職を全うすることができまように。お願いばかりになってしまいましたが、教区のみなさん、これからもよろしくお願いいたします。共に神の国の建設のために主イエスに従って歩んで行きましょう。

【略歴】

- 1971年8月21日 塩釜市生まれ・同年受洗
- 1996年 東京カトリック神学院入学
- 2002年10月14日 助祭叙階
- 2003年5月17日 司祭叙階

【趣味】

波打ち際でぼーっとしながら缶コーヒーを飲んで、タバコを一服。 【関連記事6ページ】

司教館落成・祝別式

仙台教区一致の拠点に・・・

仙台教区全信者待望の司教館
がいよいよ完成し、6月7日
(土)午後2時より落成・祝別式



が行われた。＝写真＝

司教館のリビング・ルームに
臨時の祭壇が設けられ、ローマ
教皇庁大使・エムブローズ・デ・
パオリ大司教・岡田武夫東京大
司教はじめ、札幌・新潟・さいた
ま・横浜の各司教様方が溝部脩
司教を中心に祭壇を囲んだ。参
列者は、月設計室の高田夫妻、
施工業者(株)たくみ社長佐藤卓
氏など工事関係者、建築委員、
各修道会代表、各教会代表など

で会場はいっぱいになった。

聖歌「今日こそ神が造られた
日」が歌われ、式が始まった。

式の中で、溝部司教が小聖堂
の祭壇に聖香油を塗り、祭壇・
聖櫃・十字架の祝福が行われた。

又、鷹齋師・平賀師・会津師の
三人の司祭によつて各部屋や建
物の周りに聖水が撒かれ、祝別
された。共同祈願、主の祈りが唱
えられ、祝別式を終えた。

続いて、ナザレト幼稚園のホ
ールに会場を移して落成祝賀会
が行われた。



司教養護施設の子ども達
が心のこもったお金
を送ってくださいいま
した。こうした方々
の気持ちは決して忘
れません」と感謝の
ことばを述べた。

次に、建築に携わ
った月設計室(株)



たくみ、小
山庭園設
計室の小
山雅久氏、
スタンド
グラスの

私に融和した素晴らしい建
物になりました。そのため
力を尽くしてくださいさ
々な方に感謝します。また、多
くの方が募金に協力して
くださいました。その中
でも、私がかつて勤めていた児童

月設計室高田氏挨拶(要旨)

「私は普段設計をするとき
は、数ヶ月または半年から一
年かかるのですが、この司教
館の設計はわずか2週間で完
成しました。何か不思議な力
に導かれていたように感じま
す。工事が始まってからは、
旧司教館にあったマリア様の
像を現場事務所に飾って仕事
をしました。おかげで事故も
なく無事に完成することが出
来ました。」

(株)たくみ佐藤社長挨拶
「このような建築に携わるこ
とが出来て大変嬉しく思いま
す。なぜなら、こうした建築
を経験するのは一生に一度あ
るかでしょうか。
木材は、全て無垢材です。
このような建物に住んでいれ
ば健康で長生きできるはずで
す。司教様もこれから十五年
以上は現役でお仕事ができる
でしょう(笑)。」

修復をした、スタンドグラス工
房「べるふあむ」の五十嵐沙予
氏にそれぞれ感謝状が送られ
た。
ローマ教皇庁大使パオリ大
司教「左上写真」のメッセー
ジに続いて同大司教の音頭で
乾杯し祝宴が行われた。
翌8日(日)のオープンハウス
には大勢の見学者が訪れた。



月設計の高田氏に感謝状贈呈



落成祝賀会

豊作を願う 「春の後藤寿庵祭」

晴天に恵まれた5月25日(日)、「春の寿庵祭」は水沢・福原の寿庵廟前で行われた。

午前10時、豊作祈願行列は、寿庵旗を先頭に寿庵賛歌を歌いながら農業担い手センターを出発して、1キロ程度離れた寿庵廟に着いた。

溝部司教の司式でミサが始まり、廟の周辺に青々と広がる水田に聖水がまかれ田畑の祝別が行われる中で、参加者100人程度が豊作を祈った。続いて、南



部キリシタンと後藤寿庵」というテーマで司教の講話が行われ、「1624年、キリシタン迫害を受けて寿庵が水沢を去った後10年間、東北の各地で働かれた神父様方を匿った人々は皆、寿庵とどこかでつながりを持った人々だった。この地で『キリシタン後藤寿庵』が果たした仕事の大きさと重さを深く感じる」という話に参加者は皆心打たれた様子。

例年、寿庵祭を迎えるにあたっては、地域の三つの老人クラブの皆さんが会場の除草や清掃に汗を流してくださいました。今年も90名の参加があった。

ミサ中、地域の農事実行組合の方々が共同祈願に加わってくださり、土地改良区の皆さんが子ども達のために紙芝居「後藤寿庵」を作ってくださいました。

いつもながら、地域の皆さん方の「寿庵さま」に寄せる熱い思いを感じる「春の寿庵祭」だった。(西川)

後藤寿庵について

後藤寿庵は、今から約400年前、水沢・福原の領主だった。彼は若い頃、長崎でポルトガル人から土木技術を学ぶと共にキリスト教に出会い洗礼を受けた。寿庵が今の地方の人々に尊敬されているのは、当時水不足のために荒れ果てていた野原で貧しい暮らしをしていた農民のために大変な苦勞をして胆沢川から水を田畑に引く工事を進めたからである。それと共に寿庵は「人はパンだけで生きる

ではない」という聖書の真理を示し、福原にカルワリオ神父を招き、教会を建てて人々の心の支えともなった。多くの人々に敬愛された寿庵だったが「寿庵壠」の完成を目前に切支丹迫害を受けこの地から姿を消した。

砂漠のような荒地を豊かな穀倉地帯に変えてくれた後藤寿庵の遺徳を偲び、毎年春、水沢教会主催で、秋は地域の農業関係者の主催で盛大に「寿庵祭」が行われている。

(水沢教会報より)

宮古教会献堂50周年

感謝をこめて記念式典

風薫る5月24日(土)の晴天、会場を移しての祝賀会も、マの下、献堂50周年記念式典が行われ、リア会の連携の取れた働きで準備も整い、遠くから駆けつけられた献堂当時の懐かしい方々も交えて和やかなものとなりました。教会学校の子ども達は、



学校の運動会で残念ながら参加できなかったけれど、司教様と一緒に来られた若者たちが花を添えてくれました。当日、記念誌「五十年の歩み」を何とか皆様にお渡しできたことも加えて、本当に大会出身で神言会日本管区長の菊

きな恵みをいただくことが出ました。司教様の説教の中にもあったように、「新たな出発の信徒と共に捧げられました。した私たちが、自分の信仰、四ツ家教会聖歌隊の協力もあり、分たちの教会についてどう考え、どのように作っていくかが、恵みをいただいた実感を得たよ。大きな課題」です。神に感謝。うに思われました。

(伊藤純子)

トカラ小聖堂教司

～古いものと新しいものの融合～



十字架 キリスト像の素材は石膏、十字架は木製で、赤のベルベット生地をバックにした縦87cm、横67cmの額に収められている。

このキリスト像は、明治時代フランスから渡来したもので、長崎の大浦天主堂にあったものである。長い歳月の経過による破損がかなり見られたが、溝部司教様の友人山田英雄氏(東京在住)の手によって見事に修復された。



聖遺物 聖遺物を安置する場所として、祭壇が据え付けられた床下に設定。聖遺物の安置場所を示す銘は真鍮のプレートに記されている。



東仙台光が丘の小高い一角に新築なった司教館。小聖堂はちょうど建物の中心に位置し、八角形になっている。

総面積は18㎡、高さ5m。柱はヒノキ材、梁と桁は杉材を使用。壁は藁入り珪藻土、床はコルク材で響きの良い空間である。



祭壇 インド産アッサム材、1990年、群馬県の松谷耕策氏により、故小林有方司教のために一本の丸太から作られた。高さ70cm・重さ約100kg。



聖櫃と聖体ランプ 聖櫃は旧司教館で使われていた物。聖体ランプは五十嵐紗予さんの作品。形状は球体で、窓のステンドグラスに合わせ、椿の花をモチーフとしている。

今年も山上の青空ミサ行われる 第20回米川キリシタンの里まつり

台風4号が低気圧に変わった6月1日(日)、米川キリシタンの里まつりが開催された。この祭りは、口伝であつた仙台藩のキリシタンに対する弾圧が、古文書によつて120名の殉教があつたことが判明し、米川教会が慰霊祭を始めてから今年で20回目。現在は地元町内会が広場のまつりを運営、ミサ後の交流と地元産品の販売、地元芸能の紹介が主な内容となつている。教会は青空ミサと、祈りとまつりをそれぞれ担当した。

天候が危ぶまれた



ミサは小雨の中、溝部司教、小野寺師、佐藤守也師、キエザ師、佐藤修師、土井勝吾師の共同司式で行

われ、殉教者を慰霊する荘厳なものであつた。溝部司教は、説教の中で東北における殉教の歴史と私たちの信仰について話された。ミサ終了後、綱木親和会館に於いて地元婦人部の方々が準備した昼食会があり、郷土芸能を鑑賞するなどして祭りを楽しんだ。

(佐藤憲一)

木村国基神父様。司祭叙階
おめでとつございます。

塩釜教会 二島 千明

塩釜教会からは、小松史朗神父様に続いてお二人目の司祭誕生。

司祭の高齢化や共同宣教司牧などの問題、さらに信徒数の減少が叫ばれる中での司祭叙階は、塩釜教会のみならず仙台教区にとつて大きな御恵みであると存じます。

さて、木村神父様が育てられた塩釜教会は、現在も変わらず、

私の気分転換

イメルダ幼稚園(八戸)

園長 藤村 重實
幼稚園の保育に携わつて三年目、70歳に近い私に「園長先生、園長先生」と慕つてくる園児たちを見ると、毎日が楽しく気分が優れないということとは全然ないと言つてもいいでしょう。

私の信仰は、皆さんより劣つていますが、幼稚園でまた私の周りで何か問題が起つても神様が必ず一つの窓を開けてくれていると思つていますので、悩み苦しみよりは「神様はどのように解決さ

たいへん子供達が多い教会です。御ミサ毎での侍者も5〜6名。御ミサ中に響く子供達の声も相変わらず・・・。

日曜学校も活発に行われております。

私が日曜学校の担当をしていた二十数年前、当時、木村神父様は小学3年生？ 小松神父様は小学6年生だったでしょうか。皆からは、「クニちゃん」という愛称で呼ばれ、教会の中ではアイドル的な存在でした。生真面目ながら、時々ひょうきんな事を言つので、皆の人気者で

ことにしています。

解決されないということ、開いている窓を探せないでいることと思つことにしています。今まで神様は予想もしない解決を用意してくれました。このような訳ですから、苦悩に対する気分転換ではなく、気分をより向上させる為に、温泉に行つてリフレッシュしています。

新しく温泉が開業しますと必ず訪れています。ひとときの間、電話も来ない自由な時間を楽しんでいきます。温泉開業ブームなので、私にとっては有り難い限りです。



した。また、木村家の長男として、幼い兄弟達の面倒をよく見る頼もしいおにいちゃんでした。今考えてみると、あの頃から司祭への片鱗があったのでしょうか。

どうか神様の御旨のまま、存分にお働き頂きたいと存じます。

私たち塩釜教会の信徒一同は、これからも両神父様に続く新司祭を輩出できるよう、お祈りして参りたいと存じます。

修道院紹介

宮崎カリタス修道女会

白河修道院

宮崎カリタス修道女会は、イエスキリストの聖心の無限の愛をすべての人々に告げ知らせながら、使徒としての使命に生き、特により小さい者たちのために、自身を捧げて、この世と教会に奉仕するために、1937年に、サレジオ会司祭、宣教師アントニオ・カヴォリ師によって宮崎において創立され現在に至っています。使徒的活動は、教会活動や社会福祉(老人ホーム・児童養護施設・乳



児院・保育園)教育(幼稚園・小学校)医療事業などの奉仕を中心に行っています。 私たち会員は、「あわれみ深い人は幸いである」とのみ言葉を日々生活と活動の基本的な要素として、キリストの愛を全世界の人々に伝えることを目指し、外国宣教にも力を注ぎ、現在11カ国に広がっております。 国内宣教のため、この春、私たち3名も仙台教区への派遣の恵みを頂きました。小さなものではございますが、小教区の活動に積極的に参加、協力し、地域への幼児教育にも心を尽くして参りたいと思つておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私たちの存在と活動が、三位一体の神の愛の反映となりますよう皆様のお祈りとお導きをお願いいたします。(Sr.川添)

活動紹介

仙台ダルク

仙台ダルクは1996年に薬物依存症者の回復をサポートするために開設されたりハビリテーション施設です。開設当初より教区の前端的なご協力により「仙台ダルクを支援する会」を結成していただき、1999年には仙台市より精神障害者の地域自立支援のグループホームとして、さらに2000年には小規模作業所として認定され助成を受けることができました。現在は、20名ほどの定員で、通所と入寮型のケアを続けております。また薬物問題を抱えた家族、本人からの相談や薬物問題を広く理解していただく為の啓発を目的に学校や行政機関、各種の団体からの依頼を受け講演活動も行っております。現在日本での薬物問題は、司法での刑罰による対応が中心になっていますが、再犯率は60%にも上るといわれています。薬物常用を依存症という疾病としてとらえない限り解決できないとわたしたちは考えております。どうかこれからもご支援をよろしくお願いたします。(仙台ダルク事務局 鈴木俊博)